

25journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

声を上げ、行動する政治団体として存在感増す

青梅の未来をつくる会

選挙は軌を一にする候補を全力支援

青梅の未来をつくる会(宮崎精一代表)が発会して間もなく7年。改革保守を標榜し、声を上げ、行動する政治団体として存在感を増している。その理念と活動を宮崎代表は「若い世代が理想と思う政治を実現し、誰もが前向きに生きられる社会を築いていく。そのために行政などへ提案活動を行い、地方から国政まで、選挙では党派にとられず軌を一にする候補を全力で支援していくこと」と語る。同会の歩みを振り返り、今後の方向性を展望した。

(岡村信良)

「誰がやっても同じ」大きな組織の前には私たちが1票なんて無力」「政治家なんて自分や自分に関係ある人のためにしか動かない」。政治離れ、政治不信が進み、投票率は選挙がある度、過去最低を記録する。

だが、政治への期待、希望がない社会に決して明るい未来はないはずだ。政治離れ、政治不信を解決するにはやはり選挙に行くしかない。有権者の意見を社会や政策に反映させるため党派にこだわらず、立候補者の中からより望ましい人を支援し、当選させることだ。同会の出発点はそこにある。

2015年11月の青梅市長選で自民党青梅



圏央道近くで高い稼働率のサッカー場。境町では国の助成金・企業献金(コンペに参加)を活用して、サッカー場、公園・文化施設をリニューアルしている

行力などを勘案し、予備選を機に浜中氏支援を表明し、旗揚げされた。霞地区を中心に、地域で自治会活動やまつり、朝市などのイベントを盛り上げている有志が参加した。

予備選で同会は機動的な動きを展開。浜中氏の勝利に貢献し、宮崎太郎氏との対決となった市長選でも集票力を発揮した。浜中氏は2万2760票を獲得、宮崎氏に8000票近くの差を付け、浜中市政の幕が開いた。

2019年の市長選では自民党市議が中心となり選挙対策本部が整った状況を受け、静観の構えを見せたが、野村有信前都議から今後の青梅市や西多摩の将来、立川の副都心化などの考えを聞く中で、対応を協議。浜中市政を検証して及第点と評価し、推薦を決め、全力で支援した。

選挙の時だけではない。会員が数人集まればまちづくりを語り、

は、国政の方向性を学び、国の方針に沿った形で、国の助成金などを大いに活用し、まちづくりを進めることの有効性も確認した。同会では、講演会や語る会も積極的に開催してきた。19年2月には前横浜市長の中田宏氏(現自民党参院議員)を招き、世界経済のグローバル化をテーマに、ヒト・モノ・カネの自由化とIT革命によって世界が劇的に変化していることや、国に頼ることを第一に考えず、地域の課題は地域の人が考えて解決していくとの姿勢を学んだ。2面に別掲。

中でも大きな成果となっているのが、茨城県境町への視察。会員でも大勢待利明市議が段取りを進め、橋本正裕町長とのパイプをしっかりとつくり、水素ステーションを町役場に設けるなど町レベルでの水素社会実現への取り組み、太陽光発電の推進、全国初となる無人バスの運行、関東一多いふるさと納税による寄付金、公共施設などの建設、維持管理、運営を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用して行う「PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」の活用などを目的とした。全国有数の利根川大花火大会にも招待された。境町のまちづくりから

政治への関心を高め、まちづくりのノウハウに触れる中で、より望ましい人に政治を任せるといふ同会の真価が発揮されたのが、21年7月の都議選だった。青梅選挙区(定数1)では都民ファーストの会現職の森村隆行氏と自民新人の山崎勝氏の一騎討ちになったが、森村氏を全面支援し、再選への原動力になった。17年の都議選で初当選した森村氏とは、

家庭的で温もりあるケアが安心と信頼を育みます。

老人デイサービスセンター福楽園
高齢者在宅サービス増戸センター

社会福祉法人 豊生会 特別養護老人ホーム福楽園

TEL 190-0155 042-596-4112
あきる野市網代326-1 fax 042-596-4176

DUSKIN お部屋のお掃除 お庭のお手入れ

喜びの夕ネをまこう

プロのおそうじ **ServicEMASTER**
緑と花のお手入れ **Total Green**

お庭のお手入れ エアコン清掃

ダスキンフランチャイズチェーン加盟店
ダスキン小作店 ☎042-533-4506
〒205-0001 羽村市小作台2-12-1

道の駅誘致を構想、各地に視察重ねる

21年都議選では都ファ議員を支援 今夏参院選も

政治姿勢や政策などで共感するものが多く、青梅のまちづくりの方向性で一致。小池都知事を招いた都政報告会の開催などその都度、協力してきた。都議選では西多摩選挙区(定数2)でも都民ファーストの会現職の清水康子氏を支援。清水氏は2期連続でトップ当選を果たした。

もちろん力が及ばなかった選挙もある。衆院選では、2017年が日本維新の会公認の小沢鋭仁氏を、2021年が立憲民主公認の島田幸成氏を支援したが、いずれも



境町役場にある「スマート水素ステーション (SHS)」前で

ただ、同会は都民ファーストの会の支持団体でも無ければ、会員たちは党員でもない。森村、清水の両都議と青梅、西多摩のまちづくりに向けた方向性が一致しているからだ。軌を一にできなくなれば離れるし、より良い政治家が出てくればその人を支援するだろう。

来年秋に行われる青梅市長選では、東京25ジャーナルのインタビュウに答え浜中啓一市長が3選に向け立候補することを明かした。5月14日号で掲載。2度、浜

自民現職の井上信治氏に敗れた。勝敗は歴然とした組織力の差もあれば、時の風もある。もちろん運もある。ただ、勝敗は二の次にして選挙にかかわる、一票を行使

7月の参院選東京選挙区(定数6)ではファーストの会として国政に挑戦する荒木ちは

る氏を支援する。森村、清水の両都議らと連携。5月20日に小池都知事と荒木氏を迎え、霞共益会館で行われた森村氏の都政報告会では周知活動などで後押しした。

元横浜市長でシンクタンク日本の構造研究所代表の中田宏氏(57、現自民党参院議員)を招いた講演会は青梅市河辺市民センターで2019年3月31日に開いた。「いまの私たちはどんな時代に生きているか～世界の大転換期と日本」と題し、世界ではグローバル化とIT社会の到来で貧富が拡大し、混乱によるいろいろな争いが生まれている。大変革期は10年、20年続くが、日本の針路を間違わないために今こそ政治が重要になると約1時間語った=写真。



「世界はグローバル化と巨大IT企業」

元横浜市長でシンクタンク日本の構造研究所代表の中田宏氏(57、現自民党参院議員)を招いた講演会は青梅市河辺市民センターで2019年3月31日に開いた。「いまの私たちはどんな時代に生きているか～世界の大転換期と日本」と題し、世界ではグローバル化とIT社会の到来で貧富が拡大し、混乱によるいろいろな争いが生まれている。大変革期は10年、20年続くが、日本の針路を間違わないために今こそ政治が重要になると約1時間語った=写真。

元横浜市長 中田宏氏の指針 「それぞれが考え、アイデアを出し、多くの人が議論し、実現」

業の成長を背景に、「グローバル化により利益を求め、国境を越えて巨額な資金が動き、人勝ちする巨大IT企業とその関連会社などに富が集中し、かつて

業の成長を背景に、「グローバル化により利益を求め、国境を越えて巨額な資金が動き、人勝ちする巨大IT企業とその関連会社などに富が集中し、かつて

中氏を支援してきた同会だが、市長選に向けては2期8年の浜中市政を再検証するはず

会員にはこれまで、「モーターボート競争事業の収益を伸ばした

ことは実績だ」など評価の声がある一方、「次の夢が見えない。明星大青梅キャンパス跡地の買収はしつかり計画を立てることが必要。『無理な買収だ』と不透明感が残るようなら信頼が無く」と厳しい声もある。評価によっては、支援を見送る

ことになる。見送ればより良い候補を立てることも選択肢にだろ

いづれにしても声を上げ、行動する政治団体として動くことが、より良い青梅のまちづくりにつながるなら、その影響力は大きな広がりを見せるはずだ。

東京25区管内の政治・行政、経済、社会、トピックス
毎週土曜日配信。タブロイド判をPDFで

society&business Tokyo25 journal

25journal

090 - 8460 - 9688
okamura.nobuyoshi@gmail.com

HomePage & LandingPage

ホームページ制作

スマートフォンでの閲覧を快適にするレスポンス対応、更新可能なブログシステムを実装など、制作だけでなく、公開後の更新サポートや運用に関するご相談もお任せください。

ライトプラン ¥80,000～

CMS(更新)	レスポンス
ページ数	4
デザイン	テーマカスタマイズ

ランディングページ制作、メンテナンスもお任せください。

編集室システムU ☎090-8460-9688